

ふれあいトムともだより NO4

鶴牧・落合・南野地域福祉推進委員会

ふれあいトムともとは

地域の課題やニーズに目を向けながら、様々な団体や地域の皆さんと顔の見える関係づくりを進めています



「ふれあいトムとも（鶴牧・落合・南野地域福祉推進委員会）」は、自治会・住宅管理組合やサロン、民生・児童委員、地域包括支援センターなど様々な団体のネットワークづくりを推進しています。

「ふれあいトムとも」で情報共有や意見交換を行ない、「地域の横のつながり」をつくることで、地域の課題解決や活性化を図る応援をします。

今年度は、前半を災害時の要援護者の見守り、後半を地域の福祉資源などについて、先進事例を学んでいます。

「地域の支え合いをつくる」～ふれあいトムとも活動から～

7月の第2回トムともは、「災害時も含めた要援護者（要配慮者）の見守りについて」と題し、北落合地区災害対策連絡協議会の住民主体の取組みと、エステート聖ヶ丘-3 団地管理組合防災委員会取組みについてそれぞれの団体の方からお話いただきました。北落合地区災害対策協議会は、災害時に住民主体で避難所運営が図られるよう、自治会・管理組合の垣根を越えて活動されています。その基となっているのは、お祭りなどで日常的に地域コミュニティが図られていることです。また、エステート聖ヶ丘3-1 団地管理組合は、今後一層進む高齢化に備え要援護者の個人情報や団地全体で共有する取組みや、住民同士の簡易なたすけあい活動のお話がありました。

また9月の第3回トムともでは、エステート鶴牧4・5 住宅管理組合が東日本大震災後にとった住民アンケートをもとに、実際災害が起こった場面を想定し、どのような動きが必要となるのか、その対策の必要性についてお話を伺いました。参加者からは、地域内での情報を得る方法や、参加が増える方法、広報の工夫についてなど多くの質問があり、関心の高さが伺えました。

今後、この地域でも高齢化が一層進んできます。トムともが地域のパイプ役になりながら、地域の支え合いの仕組みづくりを進めたいと思います。



第3回 ふれあいトムとも

多摩市総合防災訓練 宿泊訓練に参加して

首都直下型地震発生が懸念されている今、災害時に備えて、日常から防災に対する意識を高める必要があります。多摩市では毎年「総合防災訓練」を、各中学校をメイン会場に実施しており、今年は落合中学校で行なわれました。

当日は雨天のため、第1部の参加型体験訓練は縮小されましたが、宿泊訓練は落合中、東落合小、西落合小の体育館で行われ、中学生を含む地域の皆さんが参加しました。第3回のトムともでは、参加された方々から様々な意見が出されました。



仕切りがなく、足音が響くところで、薄いマットで寝るのは本当に大変だった。ほとんど眠れず過ごした。

高齢者や子どもにとってこの状況が続くのは厳しいと感じた。隣接した公園からは、大量の蚊が押し寄せるといふ問題もある。

今年は、比較的涼しく、過ごしやすい中での訓練だったが、それでも、毛布一枚ではだんだん寒くなってきた。

参加した方の声

訓練には中学生も参加していたが、大変よく活動し、心強く感じた。

簡易トイレは、階段やつかまるところがないなど、高齢者や障がいのある人にとっては、利用できるのか、疑問に思った。



簡易トイレ



プライベートルーム(右)とワンタッチパーテーション(中・左)

簡単に設営できるワンタッチパーテーションやプライベートルームなどがあるが、数が少なく、必要な人に届くための整理が必要と思った。

体育館に泊まるという非日常的な体験を通し、様々な気づきがありました。いつか起きる「その時」に備え、日頃からの一人ひとりの備えとともに、地域で助け合う重要性を、改めて感じる機会となりました。